

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 26 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870105610		
法人名	株式会社 アクト企画		
事業所名	グループホーム 我が家		
所在地	松山市鷹子町705-2		(電話) 089-960-1200
管理者	中山 多希史		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 21 年 2 月 3 日	評価確定日	平成 21 年 2 月 27 日

【情報提供票より】 (平成 21 年 1 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	15.7 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	9,800 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(3) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 15 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護 1	3 名	要介護 2	8 名
要介護 3	2 名	要介護 4	5 名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 86 歳	最低 70 歳	最高 98 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺には新興住宅地やマンションが立ち並び、地域住民が利用している高齢者福祉センターもある。ホーム玄関は家族や地域住民が気軽に訪ねて来られるよう、家庭的な雰囲気や居間は明るく、畳のスペースも確保し季節を感じさせる物が飾られて、居心地の良い空間づくりがされている。管理者及び職員は理念に沿って利用者の日々の生活を支援しており、利用者は穏やかな表情で自分のペースで自由に過ごしている。また、ホームは町内会に加入し、地域の行事に参加したり、地域の方にホームの行事に参加してもらうなどして、地域との交流を深めている。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
地域密着型サービスの意義を再確認し、利用者が地域の中で安心して暮らせるように、今までの理念に地域についての項目を加えている。介護計画のさらなる充実を図るため、現在も話し合いを続けている。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
管理者及び職員は評価の意義を理解しており、職員全員で項目ごとに分担して取り組んでいる。自己評価をすることにより日々のケアの振り返りができており、サービスの質の向上につなげている。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
会議は利用者及び家族、地域住民、市担当者などの参加を得て、ホームの状況や行事の報告を行い、活発な意見交換をしている。出された意見等はサービスの質の向上に活かしている。また、地域住民から地域の情報を得る場としても機能している。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
意見箱は設置していないが、家族の訪問時には声をかけ、気軽に意見等を話してもらえるよう心がけている。運営推進会議でも意見を聞いており、出された意見は運営に反映している。また、重要事項説明書にホーム内及び外部の苦情相談窓口を明記している。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
ホームは町内会に加入し、運動会などの地域行事に参加している。昨年はホームの駐車場で盆踊り会を開催し、地域の方にも参加してもらい、徐々に地域との交流ができてきている。さらにホームが地域の一員としての役割を担うと共に、ホームの機能を地域に還元していくことを望みたい。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム我が家

(ユニット名) ユニット1

記入者(管理者)
氏名 中山 多希史

評価完了日 平成 20 年 2 月 21 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「地域住民の一員であることが実感できるような生活を支援をします」という理念を追加した。 (外部評価) 地域密着型サービスの意義を再確認し、利用者が地域の中で安心して暮らせるように、今までの理念に地域についての項目を加えてホーム独自の理念をつくり、利用者の生活を支えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 地域の視点を盛り込んだ理念を追加し、6つの理念を掲げ日々取り組んでいる。 定期的に理念に沿ったケアができているか確認しあっている。 (外部評価) 管理者及び職員は理念を共有し、理念に沿って利用者のケアに取り組んでいる。利用者は穏やかな表情で、自分のペースで過ごしている。6項目の理念は各ユニットに、いつでも見ることができるよう掲示している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念が浸透するように家族には説明し、来客者にも目が届くように掲示板にも理念を貼っている。地域の方には運営推進会議にて説明はしているが、一部の参加してくださる方のみになっている。	※	地域（近所）の方々にも理解してもらえるような関係作りをしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所を散歩し挨拶などを積極的に行い、顔なじみになるようにしている。実施することにより、庭の桜や花などを見せてくださる関係に発展した事例がある。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 町内会に加入している。 地域の運動会や、行事に参加し地域の一員になれるよう努めている。また、盆踊り会に向けて、地域の人に来て頂き、教えてもらうなどの交流を深めている。 (外部評価) ホームは町内会に加入し、運動会などの地域行事に参加している。昨年はホームの駐車場で盆踊り会を開催し、地域の方にも参加してもらった。徐々に地域との交流ができてきているが、町内会の会議への参加等、まだホームが地域の一員としての役割を積極的に担っているとはまでは言えない。	※	町内会などの会議に参加したり、地域の情報を得てさらに交流を深めると共に、ホームの機能を地域に還元していく取り組みも期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 昨年、事業所で行われた盆踊り会に地域の独居の方が参加されるなどした。	※	さらに、交流を深める為に地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか、話し合いをする機会を持ちたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全員で取り組む意義を理解している。 評価を活かして取り組んでいる項目もあるが、取り組めていない項目もある。 (外部評価) 管理者及び職員は評価の意義を理解しており、自己評価も全職員で取り組んでいる。自己評価をすることにより、日々のケアの振り返りにもなっている。外部評価については課題等について職員で話し合い、改善に取り組んでいる。	※	取り組めていない項目もあるので、具体的に進めていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者の状況やサービスの事など話し合い、そこでの意見は、盆踊り会などで活かされている。 (外部評価) 会議は利用者及び家族、地域住民、市担当者などの参加を得て、ホームの状況や行事の報告を行い、活発な意見交換ができています。出された意見はサービスの質の向上に活かしている。また地域住民から地域の情報も得られている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センターなどが主催する会などに参加したり、他の研修会などにも参加し市の担当者と話しやすい関係作りが出来ている。 (外部評価) 地域包括支援センター主催の会などに参加したり、運営推進会議などで担当者話しやすい関係ができています。ため気軽に相談等できており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度があるということまでは職員知っているが、理解と活用まではいっていない。	※	今後、勉強会などを持ち全員が理解できるようにしていきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 「高齢者虐待を考える」をもとに、言葉の虐待などがあることなどを話し合った。 毎月、心理的拘束などの虐待が行われていないか確認しあっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書や契約書などをもとに、詳しく説明し、同意を得ている。書面以外の気になる事なども聞き、不安がないように配慮している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 要望や意見は、管理者や職員が聞けるようにしており、出来る限り実現するようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 暮らしぶりなどは、個別便りで家族の方へ報告している。健康状態などは随時報告している。金銭管理は請求書と一緒に収支報告をしている。 (外部評価) 毎月の請求書と共に、利用者の日頃の写真を近況報告とともに記載した「本人さん便り」を送付している。家族の来訪も多く、その都度直接報告している。緊急時や必要がある時には電話等で連絡をとっている。金銭管理については出納帳を作り、領収書を添えて家族に報告しており、預かり時には預り証を渡している。	※	職員の異動や行事などは、便りで報告していきたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等と話しやすい関係を築いていくことで意見、不満、苦情を管理者や職員に伝えやすくなるよう取り組んでいる。話しやすい雰囲気をつくるよう心掛けている。 (外部評価) 意見箱は設置していないが、家族の訪問時には声をかけ、気軽に意見等を話してもらえるよう心がけている。運営推進会議でも意見を聞いており、出された意見は運営に反映させている。また、重要事項説明書にホーム内及び外部の苦情相談窓口を記載している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回の職員会で意見交換をしている。その他、柔軟に意見を言いやすい関係作り、雰囲気づくりをしている。定期的に管理者が全職員の個人面談をして、話しなども聞いている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 病院受診、買い物、外出等、要望に応じ職員の勤務調整を柔軟にしている。また、外出などの要望にそえるために日中に勤務者が多くなるようにしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動をすることによってどちらのユニットにも馴染みの職員がいるという関係、交流を積極的に行なえるように工夫している。 1. 2階の交流をすることによりすべての利用者を知る努力をして異動によるダメージを防いでいる。 (外部評価) 開設してからもうすぐ3年になるが、職員の異動は少なく、ユニット同士の行事等での交流も日常的に行っているため、利用者や職員は顔馴染みの関係ができています。管理者もユニットごとの職員の固定について配慮しており、今のところダメージが見られる利用者はいない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 必要と思われる研修を受けられるよう取り組んでいるが、全職員が受けられているわけではない。 (外部評価) 管理者は、職員の経験や段階に応じた内容の研修への参加を促しており、職員も希望して参加している。参加した職員は、報告書は作成していないが、会議などで報告し、他の職員と共有している。参加費用は研修の内容によってホーム負担と自己負担とがある。	※	今後は、職員一人ひとりに沿った研修計画を立てることも検討していきたい。
				※	職員の経験など段階に応じた研修を計画を立て、研修の機会を多くもてるよう期待したい。研修報告については、職員自身及びホームの質の向上のためにも作成し、共有することを望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域包括支援センターが主催する交流会などに参加している。 (外部評価) グループホーム連絡協議会や地域包括支援センターなどが主催する研修会や交流会に参加し、交流を図っている。地域のグループホームとの交流もあり、相互にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 個人面談などでメンタルケアを行なっているが十分ではない。 会社の忘年会が年一回あり、多くの職員が参加できるようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 勤続年数によって奨励賞などを定めており、向上心を持てるように配慮している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用前訪問にて本人から直接話しを聞き不安や求めている事等を受け止めるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族と話し合い不安や求めていることを把握し、入居後も定期的に話し合い、不安の軽減や要望に対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人と家族の話しを聞き、必要なサービスへつなぐよう努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族に何度か見学していただき、実際に利用者とは交流してもらうことでスムーズに受け入れるように配慮している。 (外部評価) サービスを開始する前に本人や家族にホームに来てもらい、実際に雰囲気等を体験してもらうようにしている。利用者に不安が見られる場合には、徐々に馴染めるよう何回か訪問してもらうこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 雰囲気を大事にしており、利用者と時間を共に過ごせる工夫をしている。その中で、喜怒哀楽を共にし、笑いあり、涙ありの当たり前の生活を支援している。 (外部評価) 料理の得意な利用者から教えてもらったり、利用者への声かけを工夫して掃除や洗濯など日常生活を一緒に行ったりしている。利用者は人生の先輩であるという認識のもと、言葉遣いにも十分配慮し、お互い支えあう関係を築いている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と小さな喜び、悲しみでも共有できるように報告している。その中でより良い関係を築いていけるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者と家族の関係性を理解し、個別に支援できるよう取り組んでいる。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居以前より利用していた美容室にいたりしている。馴染みの場所へ行ったりもしている。馴染みの人たちが訪ねて来やすい様に配慮している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を理解し、関わりあえるよう支援している。 職員が利用者の関係を上手に取り持つことにより良好な関係作りが出来ている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 関わりを必要としている家族や利用者には支援をしているようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 散歩や買い物などの希望に柔軟に対応できるように支援している。 センター方式や職員会等で希望や思いの把握に努めている。 (外部評価) 職員は日々の暮らしの中で本人の思いを聞いたり、家族の訪問時にも希望等を聞いている。センター方式を採用入れ、職員が利用者一人ひとりについて思いや意向を把握するよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族様の面会時に話しを聞いたり、本人との会話の中から把握に努めている。また、センター方式シートを活用し、生活歴や馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりについて現状を把握すると共に、職員が意見を出し合い、心身状態も考えながら変化に応じたケアが出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の希望や本人の想いも含め、利用者本位の介護計画になるように努めているが、十分ではない。 (外部評価) 利用者が毎日を自分らしく暮らせるよう、本人及び家族に希望や意見を聞き、介護計画に反映させている。担当職員の気づきや意見を採り入れ、ケア会議で他の職員の意見も聞いて話し合いを行い、本人に合った具体的な介護計画を作成している。	※	家族がもっと介護計画に興味を持てるような工夫をしていきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 毎月、状況を確認すると共に、状態の変化があったときはその都度対応し話し合い、計画書を作成しなおしている。 (外部評価) 定期的に見直し、評価を行い、1か月毎にケアについてモニタリングを行っている。評価は個人記録ではなく会議記録に記載している。利用者の状況に変化があればその都度話し合い、現状に合った介護計画を作成している。	※	評価を個人記録に記載して職員間で共有を図り、さらにケアの質の向上につなげる取り組みを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に気づきや工夫を書くようにしており、情報の共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 買い物や通院など、本人や家族のその時々要望に応えられるよう、柔軟に対応している。 (外部評価) かかりつけ医の受診支援や、利用者の希望に応じた買い物の同行など、柔軟に対応している。また個人の看護師と契約して週2回訪問してもらい、訪問美容のサービスも利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 事業所での行事を行う際に、ボランティアや民生委員、公民館の協力など地域資源を活用できている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他の事業所にカラオケを楽しみにしたりなどの支援をしている。訪問リハビリマッサージを受けている方もいる。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議には地域包括支援センターの方に来ていただいております。地域包括支援センターが開催する地域ケアネットにも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人及び家族の意向にそえるように支援している。 (外部評価) ホームの協力医療機関をかかりつけ医としている利用者が多いが、本人及び家族の希望する医療機関を受診している利用者もある。往診対応可能なかかりつけ医もいる。職員が受診の送迎を行っており、利用者の状況の把握ができています。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて受けられるように支援している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師と相談しながら日々の健康チェックをしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した時も安心して過ごせるように、介護サマリーと共に本人の性格や行動、要望を伝えるようにしている。病院にも定期的に顔を出し安心していただけるようにしている。早期退院に向けて病院関係者と話し合い調整している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族やかかりつけ医と相談し方針を共有できるようにしている。 (外部評価) 現在、重度化や終末期の段階にある利用者はいないが、ホームの方針として、本人及び家族が希望し、ホームでの看取りが可能な状態であれば受け入れることにしている。しかし、まだ利用者や家族と話し合いが十分にできていないと見え、また終末期ケアについての職員教育も十分とは言えない。	※	重度化した場合や終末期について、早期から話し合いをもち、職員間の方針の共有が望まれる。また、早急な職員教育の取り組みも期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人や家族の意思を確認し、納得のいく終末期を送って頂けるように検討していきたい。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 十分に話し合い、住み替えがダメージとならないように対応していきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーや誇りを保てるように、言葉かけには注意している。また、個人情報の取り扱いにも注意している。 (外部評価) 職員の言葉かけについては会議でもよく話し合っており、職員は利用者と共に過ごしているという自然な雰囲気である。管理者及び職員は個人情報保護について理解しており、適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) わかりにくい場合も希望の表出をくみ取る努力をしている。納得した生活を送って頂くため自己決定の場面を作り、支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースにあわせつつ、希望にそった支援をしている。 (外部評価) 利用者にその日の過ごし方の希望を聞いたり、入浴、買い物、散歩など本人の希望に柔軟に対応している。体調等にも十分配慮し、利用者が自分のペースで過ごせるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 個々の好みに合わせたおしゃれの支援をしている。理容・美容も本人の望む店に行けるようにしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事にかかわれるように支援している。食事を作ったり、後片付けを一緒にすることにより役割や楽しみを共有している。 (外部評価) 利用者に声をかけ、食事の準備、調理、後片付けなどそれぞれにできることをしてもらっている。食事は利用者の楽しみの一つであり、職員と会話を楽しみながら食事し、職員は利用者の横に座りさりげなくサポートしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 今までの嗜好が続けられるように、一人ひとりの状況にあわせ支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンをつかみ、気持ちよく排泄できるようにしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 個々の好みや体調に合わせて入浴している。 (外部評価) 入浴のチェックを行い、一人ひとりの状況を把握している。時間は本人の希望に合わせて自由に入浴することができる。2日に1回は必ず入浴しており、利用者の楽しみの一つとなっている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々のリズムや体調に気をつけて、安心して休息したり眠れるようにしている。また、夜間安眠に繋がるよう日中の支援、認知症状に合わせて不安を取り除き、気持ちよく眠れるように支援するように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 生活歴や力を活かし役割、楽しみ事、気晴らしの支援をしている。 (外部評価) 利用者への声かけを工夫して、掃除や食事づくり、洗濯物干しなどの役割を担ってもらっている。また、絵や習字、歌など自分の好きなことを楽しめるよう個別に支援したり、クリスマス会や忘年会などのホーム行事も楽しむよう計画している。訪問日は節分で、職員と利用者が共に豆まきを楽しんでいた。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物等でご自分で使えるよう支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の希望にそって、買い物や散歩など戸外に出かけられるよう柔軟に対応している。 (外部評価) 利用者の希望に応じて日常的に買い物や散歩に出かけている。畑の世話などで外の空気に触れることができるよう配慮している。また、ホーム行事でも外に出かけることができるよう計画を立てて取り組んでいる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 本人や家族と相談しながら、普段行けないところへの支援が出来るよう努めている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 個々の希望に合わせて、自由に手紙や電話が出来るよう支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 誰が来ても居心地よく過ごせるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について定期的に話し合っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室・玄関の鍵はかけていないが、玄関の前のホールの戸は自動ロック式の鍵になっている。心理的拘束がないよう声かけなど工夫をしている。 (外部評価) 玄関に鍵はかけていないが、各ユニットの出入り口には自動ロック式の鍵があり、利用者は自由に出入りできない。管理者及び職員は鍵をかけることの弊害をよく理解しており、どうすればいいのか検討中である。職員は鍵がかかっていることで利用者に不安を与えないよう、常に見守りを行っている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は必ずリビングにスタッフがいるようにして、安全確保に努めている。夜間は時間毎に巡回して様子観察している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品については、本人と話し合っどうするかを考えている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故報告書、ヒヤリハットを徹底している。危険などを予測し、スタッフで話し合い事故防止に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時のマニュアルは作っている。定期的に事故発生時などの対応などを話し合っている。	※	全職員が応急手当などが出来るように消防署などと連携し訓練をしたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防訓練などは行っているが地震や水害などについてはまだまだ不十分である。	※	今後、地域の方とも協力できるような体制がとれるよう話し合っていきたい。
			(外部評価) 消防署に直接連絡できる緊急通報装置を設置し、マニュアルや緊急連絡網を作成しているが、今年度はまだ訓練は行っておらず、今年3月に行う予定にしている。地域住民へは運営推進会議などでも協力をお願いしている。	※	消防署の協力を得て定期的な訓練を実施するとともに、夜間を想定した訓練や近隣の協力を得た訓練など、ホーム独自の防災訓練の実施を期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりうるリスクなどについては家族と話し合い、本人にとってリスクの対応が抑圧感なく快適に過ごせるよう調整している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝バイタルチェックをし、異変などがいないか確認している。その際、変化や気付きなどあれば対応できるようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの服薬資料を作っており職員が確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の方には腹部マッサージをしたり、水分を取るようにはしたりと便秘予防の対応をしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の能力に合わせた声かけ、見守り、介助をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取の記録や栄養バランスを考えた食事の提供をしている。また、希望に応じた量の調整などもしている。体重も毎月1回測定しており体重の増減には気をつけている。 (外部評価) 食事及び水分摂取量を記録し、利用者一人ひとり把握している。利用者の希望を聞きながら、栄養のバランスに配慮した献立を考え、調理方法も個人に合わせて工夫している。栄養摂取やバランスの把握はできていない。	※	大まかな栄養摂取状況の把握のためにも、定期的に献立を栄養士に見てもらおうなど、専門的な観点からのチェックを望みたい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に対するマニュアルを作成し実行している。ノロウイルスの勉強会なども開いている。インフルエンザの予防接種は、利用者、職員共に行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板、包丁、布巾などは毎晩漂白し殺菌している。魚などの新鮮なものはその日のうちに調理するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関には季節の花を鉢やプランターに植えて親しみやすい環境をつくるようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感を出す壁飾りや写真などで居心地の良い空間を作っている。また、利用者さんが書いた習字などの展示をしたりしている。 (外部評価) 居間は明るく、畳のスペースにはこたつを置いている。家具やソファは利用者が過ごしやすいように工夫して置かれている。また壁には職員と利用者が一緒に作った季節の飾りや利用者の写真、習字、絵などが飾られている。利用者はそれぞれ好みの場所で、自分のペースで自由に過ごしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファやベンチ、コタツなどを設置しており、それぞれが思い思いに過ごせるようにしている。また、配席なども工夫している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には本人が使い慣れた家具等を自由に持ち込んで頂き、配置に関しても本人、家族と相談しながら行い、居心地良く過ごせるよう支援している。 (外部評価) 居室には、それぞれ使い慣れた家具やテレビ、イス、本人のお気に入りの物などが持ち込まれている。壁にはカレンダー、写真など思い思いの物が飾られており、入り口には利用者によって暖簾がかかっている。ベッドの方が多いが、希望や状態に合わせて布団にしている方もいるなど、その人らしい個性的な部屋となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室は1日1回は換気を行うようにしている。温度調節も利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 要所へ手すりをつけており、トイレ、廊下、浴槽などでも安全な生活が送れるよう配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりの認識力を把握し環境づくりをしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関にベンチを設置して日光浴ができるようにしている。1階ベランダでは、体操をしたり、日光浴をしたりして、過ごしている方もいる。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	願いや思い等をセンター方式シートを利用し、掴みつつあるが、すべてを実行するまでには至っていない。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	一緒に新聞を読んだり、広告を見たり、コーヒーを飲んだり、ゆったり過ごす時間をつくるように心掛けている
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとりのペースになるように支援しているが、まだまだ、スタッフの都合になっている場面がある。すべての面で利用者主体のペースとなるようにしていきたい。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居し生活が安定することによって、生き生きとした表情が見られるようになったと家族から行って頂いたりもするが、現状には満足せずもっともっと利用者が輝けるように支援していきたい。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	戸外へ出かけたりはしているが、必ずしも利用者が行きたいといわれた所へ行っているわけではないし、全員が行けているわけでもない。自分の意思で行きたい所へ柔軟に出かけられるように支援していきたい。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	かかりつけの医師といつでも連絡を取れるようにしており不安なく過ごして頂けるよう努めている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その時々で柔軟な対応を心掛けているが、要望に応じきれない時もある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時などに困っていること、不安なこと、求めていることを聞くようにしているし、話しやすいような雰囲気作りをしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	友人や馴染みの方が数日に一度は訪ねてこられる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	盆踊り会などを行うことにより、少しずつ関係が広がっている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者と話しをするのを楽しみにしている職員が多い。利用者と共に楽しめるような行事を計画するなどして、職員全員が生き活きと働けるようにしていきたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の要望や想いにそえるように支援しているが、共同生活ということで我慢している部分もあると思うので、少しずつ解消できるようにしていきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	満足してもらえるようサービス提供させて頂いているが、家族の本音の部分をもっと掘り起こしていきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- 玄関に手作りのベンチがあり、そこで天気の良い日は日光浴をしている。
- 利用者と職員の関係が安定しており、笑顔が随所に見られる。
- 昔の話を聞いたり、新聞について色んな話しをしたりと、のんびりとした時間を大事にしている。
- 玄関や廊下など利用者と一生懸命掃除をしている。
- 毎年遠足ということで、遠出をしている。去年は、今治まで行きました。
- 家庭ミニ菜園があり、季節のものを育てている。庭で取れたものをすぐに食事に使ったりしているので新鮮。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム我が家

(ユニット名) ユニット2

記入者(管理者)
氏名 中山 多希史

評価完了日 平成 20 年 2 月 21 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「地域住民の一員であることが実感できるような生活を支援をします」という理念を追加した。 (外部評価) 地域密着型サービスの意義を再確認し、利用者が地域の中で安心して暮らせるように、今までの理念に地域についての項目を加えてホーム独自の理念をつくり、利用者の生活を支えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 地域の視点を盛り込んだ理念を追加し、6つの理念を掲げ日々取り組んでいる。 定期的に理念に沿ったケアができていないか確認しあっている。 ユニットごとに掲示し認識を深めるよう努めている。 (外部評価) 管理者及び職員は理念を共有し、理念に沿って利用者のケアに取り組んでいる。利用者は穏やかな表情で、自分のペースで過ごしている。6項目の理念は各ユニットに、いつでも見ることができるように掲示している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念が浸透するように家族には説明し、来客者にも目が届くように掲示板にも理念を貼っている。地域の方には運営推進会議にて説明はしているが、一部の参加してくださる方のみになっている。	※	地域（近所）の方々にも理解してもらえるような関係作りをしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近隣がアパート、借家である為に日常的な付き合いがスムーズに行いにくい環境ではあるが、本年度は自治会等の協力により少し接点が出来たように思える。	※	自治会の夏祭り参加を困難なところ事業所独自で盆踊り大会を行う事により近隣の方に進んで参加して頂けた。今後も毎日の挨拶など続けていく。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 町内会に加入している。 地域の運動会や、行事に参加し地域の一人になれるよう努めている。また、盆踊り会に向けて、地域の人に来て頂き、教えてもらうなどの交流を深めている。	※	町内会が発信している毎月行事の清掃などに、少しずつ参加出来るように考えていきたい。
			(外部評価) ホームは町内会に加入し、運動会などの地域行事に参加している。昨年はホームの駐車場で盆踊り会を開催し、地域の方にも参加してもらった。徐々に地域との交流ができてきているが、町内会の会議への参加等、まだホームが地域の一人としての役割を積極的に担っているとまでは言えない。	※	町内会などの会議に参加したり、地域の情報を得てさらに交流を深めると共に、ホームの機能を地域に還元していく取り組みも期待したい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 昨年、事業所で行われた盆踊り会に地域の独居の方が参加されるなどした。	※	事業所自体が地域の人、自治会との交流を始めた初年度でもあるので、これを一層伸ばしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全員で取り組む意義を理解している。 評価を活かして取り組んでいる項目もあるが、取り組めていない項目もある。	※	取り組めていない項目もあるので、具体的に進めていきたい。
			(外部評価) 管理者及び職員は評価の意義を理解しており、自己評価も全職員で取り組んでいる。自己評価をすることにより、日々のケアの振り返りにもなっている。外部評価については課題等について職員で話し合い、改善に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 利用者の状況やサービスの事など話し合い、そこでの意見は、盆踊り会などで活かされている。 (外部評価) 会議は利用者及び家族、地域住民、市担当者などの参加を得て、ホームの状況や行事の報告を行い、活発な意見交換ができています。出された意見はサービスの質の向上に活かしている。また地域住民から地域の情報も得られている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センターなどが主催する会などに参加したり、他の研修会などにも参加し市の担当者と話しやすい関係作りが出来ている。 (外部評価) 地域包括支援センター主催の会などに参加したり、運営推進会議などで担当者と話しやすい関係ができています。ため気軽に相談等できており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度については学んでいるが、理解と活用まではいっていない。	※	制度自体が難しく、今後支援を必要とする方が増大する制度でもあり、勉強会を開き理解を深めていきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 「高齢者虐待を考える」をもとに、言葉の虐待などがあることなどを話し合った。 毎月、心理的拘束などの虐待が行われていないか確認しあっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書や契約書などをもとに、詳しく説明し、同意を得ている。書面以外の気になる事なども聞き、不安がないように配慮している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 要望や意見は、管理者や職員が聞けるようにしており、出来る限り実現するようにしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 暮らしぶりなどは、個別便りで家族の方へ報告している。健康状態などは随時報告している。金銭管理は請求書と一緒に収支報告をしている。 (外部評価) 毎月の請求書と共に、利用者の日頃の写真を近況報告とともに記載した「本人さん便り」を送付している。家族の来訪も多く、その都度直接報告している。緊急時や必要がある時には電話等で連絡をとっている。金銭管理については出納帳を作り、領収書を添えて家族に報告しており、預かり時には預り証を渡している。	※	職員の異動や行事などは、便りで報告していきたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等と話しやすい関係を築いていくことで意見、不満、苦情を管理者や職員に伝えやすくなるよう取り組んでいる。話しやすい雰囲気をつくるよう心掛けている。 (外部評価) 意見箱は設置していないが、家族の訪問時には声をかけ、気軽に意見等を話してもらえよう心がけている。運営推進会議でも意見を聞いており、出された意見は運営に反映させている。また、重要事項説明書にホーム内及び外部の苦情相談窓口を記載している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月一回の職員会で意見交換をしている。その他、柔軟に意見を言いやすい関係作り、雰囲気づくりをしている。定期的に管理者が全職員の個人面談をして、話しなども聞いている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 病院受診、買い物、外出等、要望に応じ職員の勤務調整を柔軟にしている。また、外出などの要望にそえるために日中に勤務者が多くなるようにしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動をすることによってどちらのユニットにも馴染みの職員がいるというような関係、交流を積極的に行なえるように工夫している。 1. 2階の交流をすることによりすべての利用者を知る努力をして異動によるダメージを防いでいる。 (外部評価) 開設してからもうすぐ3年になるが、職員の異動は少なく、ユニット同士の行事等での交流も日常的に行っているため、利用者や職員は顔馴染みの関係ができています。管理者もユニットごとの職員の固定について配慮しており、今のところダメージが見られる利用者はいない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 必要と思われる研修を受けられるよう取り組んでいるが、全職員が受けられているわけではない。 (外部評価) 管理者は、職員の経験や段階に応じた内容の研修への参加を促しており、職員も希望して参加している。参加した職員は、報告書は作成していないが、会議などで報告し、他の職員と共有している。参加費用は研修の内容によってホーム負担と自己負担とがある。	※	今後は、職員一人ひとりに沿った研修計画を立てることも検討していきたい。
				※	職員の経験など段階に応じた研修を計画を立て、研修の機会を多くもてるよう期待したい。研修報告については、職員自身及びホームの質の向上のためにも作成し、共有することを望む。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域包括支援センターが主催する交流会などに参加しサービスの質の向上に努めている。また、他事業所での勉強会に参加したり、相互交流などを行っている。 (外部評価) グループホーム連絡協議会や地域包括支援センターなどが主催する研修会や交流会に参加し、交流を図っている。地域のグループホームとの交流もあり、相互にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 個人面談などでメンタルケアを行なっているが十分ではない。 会社の忘年会が年一回あり、多くの職員が参加できるようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 勤続年数によって奨励賞などを定めており、向上心を持てるように配慮している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用前訪問にて本人から直接話しを聞き不安や求めている事等を受け止めるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族と話し合い不安や求めていることを把握し、入居後も定期的に話し合い、不安の軽減や要望に対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に本人と家族の話しを聞き、必要なサービスへつなぐよう努めている。	※	本人と家族の想いが必ずしも一致しない為、最優先の支援の見極めに努めたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人や家族に何度か見学していただき、実際に利用者と交流してもらうことでスムーズに溶け込めるように配慮している。 (外部評価) サービスを開始する前に本人や家族にホームに来てもらい、実際に雰囲気等を体験してもらうようにしている。利用者に不安が見られる場合には、徐々に馴染めるよう何回か訪問してもらうこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 雰囲気を大事にしており、利用者と時間を共に過ごせる工夫をしている。その中で、喜怒哀楽を共にし、笑いあり、涙ありの当たり前の生活を支援している。 (外部評価) 料理の得意な利用者から教えてもらったり、利用者への声かけを工夫して掃除や洗濯など日常生活を一緒に行ったりしている。利用者は人生の先輩であるという認識のもと、言葉遣いにも十分配慮し、お互い支えあう関係を築いている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と小さな喜び、悲しみでも共有できるように報告している。その中でより良い関係を築いていけるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者と家族の関係性を理解し、個別に支援できるよう取り組んでいる。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居以前より利用していた美容室にいたりしている。馴染みの場所へ行ったりもしている。馴染みの人たちが訪ねて来やすい様に配慮している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を理解し、関わりあえるよう支援している。 職員が利用者の関係を上手に取り持つことにより良好な関係作りが出来ている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 関わりを必要としている家族や利用者には支援をしているようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 散歩や買い物などの希望に柔軟に対応できるように支援している。 センター方式や職員会等で希望や思いの把握に努めている。入浴時は絶好のチャンスと会話に努めて、気持ちなどを引き出している。 (外部評価) 職員は日々の暮らしの中で本人の思いを聞いたり、家族の訪問時にも希望等を聞いている。センター方式を採用し、職員が利用者一人ひとりについて思いや意向を把握するよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族様の面会時に話を聞いたり、本人との会話の中から把握に努めている。また、センター方式シートを活用し、生活歴や馴染みの暮らし方などの把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりについて現状を把握すると共に、職員が意見を出し合い、心身状態も考えながら変化に応じたケアが出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の希望や本人の想いも含め、利用者本位の介護計画になるように努めているが、十分ではない。 <hr/> (外部評価) 利用者が毎日を自分らしく暮らせるよう、本人及び家族に希望や意見を聞き、介護計画に反映させている。担当職員の気づきや意見を採り入れ、ケア会議で他の職員の意見も聞いて話し合いを行い、本人に合った具体的な介護計画を作成している。	※	家族がもっと介護計画に興味を持てるような工夫をしていきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 毎月、状況を確認すると共に、状態の変化があったときはその都度対応し話し合い、計画書を作成しなおしている。 <hr/> (外部評価) 定期的に見直し、評価を行い、1か月毎にケアについてのモニタリングを行っている。評価は個人記録ではなく会議記録に記載している。利用者の状況に変化があればその都度話し合い、現状に合った介護計画を作成している。	※	評価を個人記録に記載して職員間で共有を図り、さらにケアの質の向上につなげる取り組みを望みたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に気づきや工夫を書くようにしており、情報の共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 買い物や通院など、本人や家族のその時々要望に応えられるよう、柔軟に対応している。 (外部評価) かかりつけ医の受診支援や、利用者の希望に応じた買い物の同行など、柔軟に対応している。また個人の看護師と契約して週2回訪問してもらい、訪問美容のサービスも利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 事業所での行事を行う際に、ボランティアや民生委員、公民館の協力など地域資源を活用できている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他の事業所にカラオケを楽しみにしたりなどの支援をしている。訪問リハビリマッサージを受けている方もいる。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議には地域包括支援センターの方に来ていただいております。地域包括支援センターが開催する地域ケアネットにも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人及び家族の意向にそえるように支援している。 (外部評価) ホームの協力医療機関をかかりつけ医としている利用者が多いが、本人及び家族の希望する医療機関を受診している利用者もある。往診対応可能なかかりつけ医もいる。職員が受診の送迎を行っており、利用者の状況の把握ができています。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて受けられるように支援している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師と相談しながら日々の健康チェックをしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した時も安心して過ごせるように、介護サマリーと共に本人の性格や行動、要望を伝えるようにしている。病院にも定期的に顔を出し安心していただけるようにしている。早期退院に向けて病院関係者と話し合い調整している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族やかかりつけ医と相談し方針を共有できるようにしている。 (外部評価) 現在、重度化や終末期の段階にある利用者はいないが、ホームの方針として、本人及び家族が希望し、ホームでの看取りが可能な状態であれば受け入れることにしている。しかし、まだ利用者や家族と話し合いが十分にできていないとは言えず、また終末期ケアについての職員教育も十分とは言えない。	※	重度化した場合や終末期について、早期から話し合いをもち、職員間の方針の共有が望まれる。また、早急な職員教育の取り組みも期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 本人や家族の意思を確認し、納得のいく終末期を送って頂けるように検討していきたい。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 十分に話し合い、住み替えがダメージとならないように対応していきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーや誇りを保てるように、言葉かけには注意している。また、個人情報の取り扱いにも注意している。 (外部評価) 職員の言葉かけについては会議でもよく話し合っており、職員は利用者と共に過ごしているという自然な雰囲気である。管理者及び職員は個人情報保護について理解しており、適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) わかりにくい場合も希望の表出をくみ取る努力をしている。納得した生活を送って頂くため自己決定の場面を作り、支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースにあわせつつ、希望にそった支援をしている。 (外部評価) 利用者にその日の過ごし方の希望を聞いたり、入浴、買い物、散歩など本人の希望に柔軟に対応している。体調等にも十分配慮し、利用者が自分のペースで過ごせるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 個々の好みに合わせたおしゃれの支援をしている。理容・美容も本人の望む店に行けるようにしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事にかかわれるように支援している。食事を作ったり、後片付けを一緒にすることにより役割や楽しみを共有している。 (外部評価) 利用者に声をかけ、食事の準備、調理、後片付けなどそれぞれにできることをしてもらっている。食事は利用者の楽しみの一つであり、職員と会話を楽しみながら食事し、職員は利用者の横に座りさりげなくサポートしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 今までの嗜好が続けられるように、一人ひとりの状況にあわせ支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンをつかみ、気持ちよく排泄できるようにしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 利用者の希望する時間帯に合わせている。また、入浴剤や冬至には、ゆずを入れたり、楽しく会話しながら入浴できるように支援している。 (外部評価) 入浴のチェックを行い、一人ひとりの状況を把握している。時間は本人の希望に合わせて自由に入浴ができる。2日に1回は必ず入浴しており、利用者の楽しみの一つとなっている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々のリズムや体調に気をつけて、安心して休息したり眠れるようにしている。また、夜間安眠に繋がるよう日中の支援、認知症状に合わせて不安を取り除き、気持ちよく眠れるように支援するように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 生活歴や力を活かし役割、楽しみ事、気晴らしの支援をしている。 (外部評価) 利用者への声かけを工夫して、掃除や食事づくり、洗濯物干しなどの役割を担ってもらっている。また、絵や習字、歌など自分の好きなことを楽しめるよう個別に支援したり、クリスマス会や忘年会などのホーム行事も楽しめるよう計画している。訪問日は節分で、職員と利用者が共に豆まきを楽しんでいた。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物等でご自分で使えるよう支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の希望にそって、買い物や散歩など戸外に出かけられるよう柔軟に対応している。 (外部評価) 利用者の希望に応じて日常的に買い物や散歩に出かけている。畑の世話などで外の空気に触れることができるよう配慮している。また、ホーム行事でも外に出かけることができるよう計画を立てて取り組んでいる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 本人や家族と相談しながら、普段行けないところへの支援が出来るよう努めている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 個々の希望に合わせて、自由に手紙や電話が出来るよう支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 誰が来ても居心地よく過ごせるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について定期的に話し合っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室・玄関の鍵はかけていないが、玄関の前のホールの戸は自動ロック式の鍵になっている。心理的拘束がないよう声かけなど工夫をしている。 (外部評価) 玄関に鍵はかけていないが、各ユニットの出入り口には自動ロック式の鍵があり、利用者は自由に出入りできない。管理者及び職員は鍵をかけることの弊害をよく理解しており、どうすればいいのか検討中である。職員は鍵がかかっていることで利用者に不安を与えないよう、常に見守りを行っている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は必ずリビングにスタッフがいるようにして、安全確保に努めている。夜間は時間毎に巡回して様子観察している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 注意の必要な物品については、本人と話し合っただうするかを考えている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故報告書、ヒヤリハットを徹底している。危険などを予測し、スタッフで話し合い事故防止に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時のマニュアルは作っている。定期的に事故発生時などの対応などを話し合っている。	※	全職員が応急手当などが出来るように消防署などと連携し訓練をしたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防訓練などは行っているが地震や水害などについてはまだまだ不十分である。	※	今後、地域の方とも協力できるような体制がとれるよう話し合っていきたい。
			(外部評価) 消防署に直接連絡できる緊急通報装置を設置し、マニュアルや緊急連絡網を作成しているが、今年度はまだ訓練は行っておらず、今年3月に行う予定にしている。地域住民へは運営推進会議などでも協力をお願いしている。	※	消防署の協力を得て定期的な訓練を実施するとともに、夜間を想定した訓練や近隣の協力を得た訓練など、ホーム独自の防災訓練の実施を期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 起こりうるリスクなどについては家族と話し合い、本人にとってリスクの対応が抑圧感なく快適に過ごせるよう調整している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝バイタルチェックをし、異変などがいないか確認している。その際、変化や気付きなどあれば対応できるようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの服薬資料を作っており職員が確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の方には腹部マッサージをしたり、水分を取るようにはしたりと便秘予防の対応をしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の能力に合わせた声かけ、見守り、介助をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取の記録や栄養バランスを考えた食事の提供をしている。また、希望に応じた量の調整などもしている。体重も毎月1回測定しており体重の増減には気をつけている。 (外部評価) 食事及び水分摂取量を記録し、利用者一人ひとり把握している。利用者の希望を聞きながら、栄養のバランスに配慮した献立を考え、調理方法も個人に合わせて工夫している。栄養摂取やバランスの把握はできていない。	※	大まかな栄養摂取状況の把握のためにも、定期的に献立を栄養士に見てもらおうなど、専門的な観点からのチェックを望みたい。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に対するマニュアルを作成し実行している。ノロウイルスの勉強会なども開いている。インフルエンザの予防接種は、利用者、職員共に行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板、包丁、布巾などは毎晩漂白し殺菌している。魚などの新鮮なものはその日のうちに調理するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関には季節の花を鉢やプランターに植えて親しみやすい環境をつくるようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感を出す壁飾りや写真などで居心地の良い空間を作っている。また、利用者さんが書いた習字などの展示をしたりしている。 (外部評価) 居間は明るく、畳のスペースにはこたつを置いている。家具やソファは利用者が過ごしやすいうように工夫して置かれている。また壁には職員と利用者が一緒に作った季節の飾りや利用者の写真、習字、絵などが飾られている。利用者はそれぞれ好みの場所で、自分のペースで自由に過ごしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファやベンチ、コタツなどを設置しており、それぞれが思い思いに過ごせるようにしている。また、配席なども工夫している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には本人が使い慣れた家具等を自由に持ち込んで頂き、配置に関しても本人、家族と相談しながら行い、居心地良く過ごせるよう支援している。 (外部評価) 居室には、それぞれ使い慣れた家具やテレビ、イス、本人のお気に入りの物などが持ち込まれている。壁にはカレンダー、写真など思い思いの物が飾られており、入り口には利用者によって暖簾がかかっている。ベッドの方が多いが、希望や状態に合わせて布団にしている方もいるなど、その人らしい個性的な部屋となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 居室は1日1回は換気を行うようにしている。温度調節も利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 要所へ手すりをつけており、トイレ、廊下、浴槽などでも安全な生活が送れるよう配慮している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりの認識力を把握し環境づくりをしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関にベンチを設置して日光浴ができるようにしている。1階ベランダでは、体操をしたり、日光浴をしたりして、過ごしている方もいる。ミニ菜園があり、野菜などを育てている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	願いや思い等をセンター方式シートを利用し、掴みつつあるが、すべてを実行するまでには至っていない。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	一緒に新聞を読んだり、広告を見たり、コーヒーを飲んだり、ゆったり過ごす時間をつくるように心掛けている
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとりのペースになるように支援しているが、まだまだ、スタッフの都合になっている場面がある。すべての面で利用者主体のペースとなるようにしていきたい。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	入居し生活が安定することによって、生き生きとした表情が見られるようになったと家族から行って頂いたりもするが、現状には満足せずもっともっと利用者が輝けるように支援していきたい。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	戸外へ出かけたりはしているが、必ずしも利用者が行きたいといわれた所へ行っているわけではないし、全員が行けているわけでもない。自分の意思で行きたい所へ柔軟に出かけられるように支援していきたい。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	かかりつけの医師といつでも連絡を取れるようにしており不安なく過ごして頂けるよう努めている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その時々で柔軟な対応を心掛けているが、要望に応じきれない時もある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 1 ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時などに困っていること、不安なこと、求めていることを聞くようにしているし、話しやすいような雰囲気作りをしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 1 ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	友人や馴染みの方が数日に一度は訪ねてこられる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	盆踊り会などを行うことにより、少しずつ関係が広がっている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者と話しをするのを楽しみにしている職員が多い。利用者と共に楽しめるような行事を計画するなどして、職員全員が生き活きと働けるようにしていきたい。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々の要望や想いにそえるように支援しているが、共同生活ということで我慢している部分もあると思うので、少しずつ解消できるようにしていきたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	満足してもらえるようサービス提供させて頂いているが、家族の本音の部分をもっと掘り起こしていきたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- 玄関に手作りのベンチがあり、そこで天気の良い日は日光浴をしている。
- 利用者と職員の関係が安定しており、笑顔が随所に見られる。
- 昔の話を聞いたり、新聞について色んな話しをしたりと、のんびりとした時間を大事にしている。
- 玄関や廊下など利用者と一生懸命掃除をしている。
- 毎年遠足ということで、遠出をしている。去年は、今治まで行きました。
- 家庭ミニ菜園があり、季節のものを育てている。庭で取れたものをすぐに食事に使ったりしているので新鮮。